

サイバー・キャンパス・コンソーシアム  
平成23年度 第2回看護学グループ運営委員会 議事概要

日 時：平成23年10月13日（木）10：30～12：30

場 所： 公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局

出席者： 宮本委員、仲井委員、石橋アドバイザー（ネット参加）

（事務局：井端、森下、平田）

### 1. 検討内容

第1回看護学グループ運営委員会を承けて、看護学コアカリキュラム実現のための看護学授業モデル案について検討した。

#### 1. モデル案策定や教員への意見聴取の趣旨確認

看護学のコアカリキュラムを実現する上で必要な課題の解決を図るために、ICTの活用を含めた授業改善モデルを策定し看護学教育分野別サイバーFD研究員に意見を伺う。その結果を踏まえてコアカリキュラムの見直しを進め、最終案としてまとめる。

以上の作業工程について、あらためて確認した。

#### 2. 授業モデル案について

##### (1) 中間まとめ案1

- ① 前回までは看護方法論を題材にしていたが、上記の趣旨を踏まえて看護援助技術を中心としたモデルに変更した。
- ② 対象となるコアカリキュラムは、「Ⅱ群. 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力—9. 看護援助技術を適切に実施する能力を身につける」で、そのための到達目標を「情動・認知・行動に働きかける看護援助技術を理解し、指導のもとで実施できる。」とした。
- ③ モデルの項目のうち「2. 授業デザイン」の「2.1 授業のねらい」は、ICTの活用が前面に出ているが、これまでの授業における問題点やその背景、さらに身につけるべき能力を明確に示すことにした。
- ④ 指導技術の知識・技術・態度に関する教育は現在も講義・演習で行われているが、実習の現場で応用するための能力が必ずしも身に付いているとは限らない。そこで、授業の仕組みを変えることによって看護の現場で活用できる能力の育成を目指すカリキュラムの構築が必要であることを確認した。
- ⑤ モデルでは、知識・技術・態度などの統合化を図ることで、実践的で活用力に富んだ患者指導技術の習得を目指すことにした。
- ⑥ 修正前の「授業のねらい」に関する説明は、「2.3 ICTを用いた授業のシナリオ」であらためて記述することにした。
- ⑦ 「2.2 授業の仕組み」以降は、石橋アドバイザーがさらに修正を加え、次回委員会で検討することにした。

##### (2) 中間まとめ案2

① これまで、在宅看護論実習前演習についてモデル作成を進めてきたが、ICT活用を前提としたコアカリキュラムを実施する上での問題点や課題を考えた場合、石橋アドバイザーが提案された看護援助技術に統合することがモデル作成にとって有効であることを確認し、今回提示する看護学授業モデルは、看護援助技術の1つに絞ることにした。

② 在宅看護論実習前演習において検討された内容については、看護援助技術のモデルに反映する。

### 3. 次回委員会

次回は修正モデルについて、意見聴取用に検討を進めることにし、日程はメールで調整することにした。